

授業科目の考え方

1) 基礎分野

<設定理由>

看護の対象である人間は、唯一無二の存在であり、自然・社会・文化的環境とのダイナミックな相互作用を営む社会的存在である。基礎分野では、人間を幅広く理解するためにベースとなる諸科学を学ぶことが必要と考える。また、人間を取り巻く環境は時代と共に大きく変化しており、生活基盤にある社会の仕組みを知り、現代社会に求められる国際化・情報化に対応できる基礎的能力の育成に力を入れ、生活を支える看護実践に繋げる内容とする。さらに、看護は、人の健康に深く関わる職業であることから、生命の尊厳、多様な価値観の認識、人権の尊重について学ぶ内容とした。教育の対象者である学生の発達段階は、一人の人間として成長・成熟し人格を形成して行く途上にある。学生が、科学的思考力を高め感性豊かな人間として成長し、主体的に責任ある行動が取れるような学びができる科目内容が必要である。

以上のことから基礎分野は、専門基礎分野、専門分野の習得に必要な知識と態度を養うと共に、豊かな人間関係として成長していける基盤を養う授業科目を設定した。科学的思考の基盤として物理学、言葉と文章及び看護と情報を設定した。人間と生活、社会の理解、として、くらしと社会生活、心理学、教育論、人間関係論、看護と倫理、異文化コミュニケーション論とした ICT を活用するための基礎的能力を養うためにプレゼンテーション論、プロジェクト学習を設定した。

目 標

1. 看護の対象である人間を生活者として理解する
2. 科学的思考能力を高め、論理的に物事を考え解決していくための基礎を学ぶ
3. 感性を磨き、人間を幅広く理解する
4. 豊かな人間性と倫理的態度を身につけるための基礎を学ぶ
5. 国際化・情報化社会に対応し活用できる能力を身につける
6. 状況に合わせて相手の価値観を理解しながら自分の意見を発言し、相手の立場になって表現を選んだり、価値観の異なる他人と協調したりしながら主体的に行動できる

科学的思考の基盤	科 目	物理学 (1単位 30時間)
	科目設定理由	物理的現象に対する基礎的理論をもとに、日常生活に密着した物理学的基本原理・思考方法を理解し、医療や看護に必要な物理的基礎知識を習得することを目的として設定した。
	科 目	ロジカル・ライティング (1単位 30時間)
	科目設定理由	人と人との関わり生活していく中で、必要とされる言語能力の基礎を育成する。「話す・聞く・書く」といった内容も含め、自分の思いや考えを自分の言葉で相手に適切に伝えられる、また文章に表現する力を習得することを目的として設定した。
	科 目	看護と情報 (1単位 30時間)
人間と生活社会の理解	科目設定理由	私たちの生活の中で IT 化が進み医療の現場においても欠かせないものになっている。看護師は、看護実践する上で科学的根拠にもとづき統計的データを解析する力や個人情報の保護など倫理観を持ち、情報を管理する力が求められる。情報に対する基礎的知識・情報処理方法を習得するために設定した。
	科 目	くらしと社会 (1単位 30時間)
	科目設定理由	私たちの暮らす社会の変遷と現代社会の成り立ち知り、社会的出来事や社会制度の目指すものと、そこに暮らす人々の生活や意識の変遷の様々な問題に気づくことで、今後の社会の動向に目を向ける機会とする。また社会の中で生活し構成する単位としての個人、家族、組織に関する理解を深め、社会の一員としての役割を考えることを目的として設定した。
	科 目	心理学 (1単位 30時間)
	科目設定理由	看護の対象である人間の行動や思考の根底にある心を科学的に理解することにより、自己と他者への理解を深め、看護実践につながる力を修得することを目的として設定した。また精神障がいや心身症、不適応行動などの援助、回復、予防をするために基礎心理学の知識、人間に寄り添う臨床心理学の技能を習得することを目的として設定した。
人間と生活社会の理解	科 目	看護・健康教育 (1単位 30時間)
	科目設定理由	教育の意義・学習の原理・評価は、自己啓発の基礎となる。看護において、対象に対する健康増進・保健指導(教育)活動などを通して人間を望ましい姿に変化させるために、心身両面にわたって、意図的、計画的に働きかける。知識の啓発、技能の教授、人間性の涵養(かんよう)などを図り、指導の基本になる基礎的知識を学び、看護場面に活かしていく目的として設定した。

人間と生活社会の理解	科 目	人間関係論 (1単位 30時間)
	科目設定理由	看護は、人間関係を基盤として成長するものである。人間の発達、パーソナリティ、社会行動、心の病とその対処などを通して、自己と他者、対人関係、社会生活についての理解を深めることが大切である。また看護を实践するうえで多職種の人々と協働する機会も多く、チームの一員として人間関係の重要性を認識し場面に応じた関係性を築いていく力を習得する目的で設定した。
	科 目	倫理学 (1単位 30時間)
	科目設定理由	近年の科学技術の発達は、医療現場を大きく変えると同時に複雑な問題を引き起こしている。それらは「生」とは、「死」とは、「生命」とは何かと言う根源的な問いに関わっていく。現代社会における倫理の諸問題を捉え、医療職としての倫理的思考・態度を習得する目的で設定した。
	科 目	異文化コミュニケーション (1単位 30時間)
	科目設定理由	グローバル化が進み文化や価値観が多様化しており、英語の読解力、表現力を高め、言語や異文化に対する関心を持つことが求められる。看護の立場で活用できる日常会話や国際社会に対応できるコミュニケーション能力を習得することを目的として設定した。
	科 目	ボランティア論 (1単位 15時間)
	科目設定理由	ボランティアは、誰もが暮しやすい豊かな社会をめざして、さまざまな人や団体とつながり、ネットワークをつくりながら、社会の課題解決に自発的に取り組むことである。地域社会の現状を知り、福祉、教育、文化、芸術、スポーツ、環境、国際協力、まちづくり、人権など、幅広い分野で「市民」「行政」と連携・協働して課題解決する力を習得することを目的として設定した。
	科 目	レクリエーション論 (1単位 30時間)
	科目設定理由	レクリエーションは、人が生活する上で、生活に楽しみをもたらす、気分を向上させ「はりあい」と「自信」を与え、心身の機能を回復させ継続的なコミュニケーションの機会を作る。心身の健康の必要性を理解し、健康の維持増進を図るための能力と技能を習得する。また、主体的に自己の健康管理ができることを目的として設定した。
	科 目	コミュニケーション論 (1単位 15時間)
	科目設定理由	人間は双方が知っている情報を提供し合い、自分が知らなかった情報を吸収するためにコミュニケーションを取る。看護においても患者・家族・多職種との関係構築が重要である。看護場面において同僚や上司に対する報告・意見交換などコミュニケーションのほとんどがプレゼンテーションである。相手に自分の思考をわかりやすく伝え、対人コミュニケーションの理論と対人関係技法の基礎を学び、良好な人間関係を築くための力を習得する目的で設定した。
	科 目	プレゼンテーション論 (1単位 15時間)
科目設定理由	社会の情報化が進み、生活の場にも必要不可欠なものとなっている。ICT(情報通信技術)を活用して、情報活用能力を身に付け、情報社会に主体的に対応していく力を身に付ける。個別学習、協働学習を通して学習の効率化や人にわかりやすく伝える能力を習得する目的で設定した。	
科 目	プロジェクト学習 (1単位 15時間)	
科目設定理由	人が自己成長する手段として、目標を達成するための自分のあるべき姿や課題を考え、学習者がチームを組みゴールを共有し、「課題設定⇨情報収集⇨整理・分析⇨まとめ・表現」の流れで取り組む。読み取る力・表現する力・自ら何かをなす力・自ら考える力・情報を見極める力・生きる力を習得することを目的として設定した。	

2) 専門基礎分野

<設定理由>

看護は、あらゆる健康レベルの人々を対象として、人々がより良い健康状態に向かってその人らしく生活が営めるように、セルフケア能力を高めるための援助である。本分野において必要なことは、人体の構造や機能を系統的に理解するための基礎的知識及び医学的根拠を明確にして、看護実践ができるよう病気の成り立ちや回復の過程を理解するための知識であると考えた。また、人々が社会生活の中で社会資源を活用し、その人らしい生活が送れるよう援助するための基礎的知識が必要であることから、健康支援と社会保障制度を考え位置付けた。

専門基礎分野の内容は、看護にとって専門的であり、基礎的知識となるため系統的に考えることができるように興味をもたせる工夫を凝らすことが求められる。そのためには、教授方法が講義形式に偏ることの無いようグループ学習・プレゼンテーション・体験学習を採用した学習等を組み入れ、学生が主体的に学習できる場を設け、自ら考え行動し知識の整理と自学自習の習慣を身に付けさせることが必要である。

科目設定に当たっては、人体の構造と機能は、解剖生理学Ⅰ、Ⅱ及び生化学を設定した。疾病の成り立ちと回復の促進においては、微生物学、病気とからだⅠ～Ⅷ、治療論Ⅰ（栄養と生活・リハビリテーション）、治療論Ⅱ（薬理・放射線）、を設定した。健康支援と社会保障制度は、総合医療論、地域保健論、地域を支える社会のしくみ及び法と看護を設定した。

目 標

1. 人間を理解する基礎として人体の構造と機能を系統的に学ぶ
2. 疾病の成り立ちとその回復の過程を理解する
3. 法律や社会保障制度について学び、生活を支え、健康の維持・増進のための社会資源の活用方法を理解する

人体の構造と機能	科 目	解剖生理学Ⅰ (2単位 60時間)
	科目設定理由	人体の構造と機能は、健康・発達・加齢状態、病態の進行状態等を観察・判断するうえで不可欠な基礎知識である。これらの知識は看護において観察能力を高めると共に、専門分野の援助技術の基礎知識となるため解剖見学実習も含めて設定した。
	科 目	解剖生理学Ⅱ (1単位 30時間)
	科目設定理由	解剖生理学Ⅰに同じ 解剖見学実習を行い、実際自分の目で見て手で触れて一つひとつ確認し学びを深めるものとして設定した。
人体の構造と機能	科 目	生化学 (1単位 30時間)
	科目設定理由	生化学は、科学の視点から生命を解析し、生体を構成し物質・代謝・機能、および異常を分子レベルで捉え疾患の発症のメカニズムを理解する。生体内でのエネルギー獲得のしくみや生体の恒常性の維持に関連して、糖質、タンパク質、脂質などの代謝が有機的につながっていることを理解する。人体を構成する物質や、食物として摂取する物質が、どのように構成されて作られ壊されて、人体の恒常性がどのように保たれているのかを理解し、疾病との関連を習得する目的で設定した。
疾病の成り立ちと回復の促進	科 目	微生物学 (1単位 30時間)
	科目設定理由	微生物は、人が生活していく中で必要不可欠なものと害を及ぼすものがある。微生物とはどういうものなのかを理解し、人間にどのような病気をおこすのか、それに対してどのように対処すべきかを学び、医療従事者として感染制御の知識を習得するために設定した。
	科 目	病気とからだⅠ (病理学総論) (1単位 15時間)
	科目設定理由	正しい的確な看護を実践するためには、正常な人間の構造と機能を知るだけでなく、疾病の原因や経過について理解する必要がある。特に疾病による形態的・機能的変化についてより詳しい知識を習得することを目的として設定した。解剖見学実習とあわせて、病理組織の展示物の見学や顕微鏡を使って病理組織の観察及びスケッチ等を行い理解を深める。
	科 目	病気とからだⅡ 呼吸器・循環器 (1単位 30時間) 病気とからだⅢ 消化器系 (1単位 15時間) 病気とからだⅣ 運動器系 (1単位 15時間) 病気とからだⅤ 脳神経 (1単位 15時間) 病気とからだⅥ 血液系・内分泌代謝系・アレルギー膠原病系 (1単位 30時間) 病気とからだⅦ 腎泌尿器・皮膚・女性生殖器系 (1単位 30時間) 病気とからだⅧ 歯・眼・耳鼻咽喉 (1単位 15時間)
	科目設定理由	解剖生理学の知識と症状や疾患の知識を一本化し、疾患を持った患者の身体において進行している生理的・病理的過程はどのようなものか、その結果、もたらされる状態はどのようなものかを習得する。また、疾患が患者の生命と生活にどのような影響を与えるのか把握し、科学的根拠に基づいた看護の実践の基礎知識を習得するために設定した。
疾病の成り立ちと回復の促進	科 目	治療論Ⅰ (栄養と生活・リハビリテーション) (1単位 30時間)
	科目設定理由	人間の生体を維持するために必要な栄養の意義と各栄養素の働きについて理解する。以前は栄養補給が不十分で病気になる時代から、現代は摂取が過剰になっているために病気の引き金になっている時代である。そのため、社会構造の変化や人間の心理、価値観等々を考慮して、人々の健康に関与する栄養管理を行わなくてはならない。既習科目と関連させ個々の生活や健康状態に合わせた食生活の援助方法を学び、看護実践に活かすことを目的として調理実習も含めて設定した。リハビリテーションは単なる機能回復ではなく、「人間らしく生きる権利の回復」や「自分らしく生きること」を目標に行われる。また、障害を治すだけではなく、障害を持ちながらも、よりよい人生を送ることができるよう、支援を行っていくことが重要である。1人ひとりに合った生活能力を獲得し、豊かな人生を送ることができるように、対象の日常生活を整えセルフケア能力を高める援助技術を習得することを目的として設定した。また、多職種連携を促進するために、理学療法士 (PT)、作業療法士 (OT) 及び言語聴覚士 (ST) を理解するために設定した。

疾病の成り立ちと回復の促進	科 目	治療論Ⅱ（放射線治療・薬理）（1単位 30時間）
	科目設定理由	看護師は最も患者に接する時間と機会が多く、薬物治療を受けている患者の回復に果たす役割は大きい。薬物療法薬物の作用・効果・性質を理解し、薬物が生体に及ぼす影響や病態に応じた薬物療法のあり方を習得する目的で設定した。 関連科目：基礎看護学方法論（与薬）と健康状態別看護（薬物療法と看護） 患者は各種疾患の診断から治療まで様々な目的をもっている。看護師は放射線医療の現場では、診療放射線技師と共に、患者と接するのは医師よりも近い位置にいる。そのため、積極的に診療に参加できるように放射線取り扱いのための知識や患者の苦痛や不安を軽減できるように基礎的知識を習得する目的で設定した。
社会 保障 制度 と 生 活 者 の 健 康	科 目	治療と看護（1単位 30時間）
	科目設定理由	看護の主眼は、病気の時も健康な時も毎日繰り返される日常生活行動を支えることであり、医学的治療をしながらもその人らしい生活を送れるように援助することである。医療行為も含めてその人の今日の暮らしを支えるために、生命維持のための「恒常性維持」や生活行動をつくり出す「動き」など看護学の視点（生活行動からみるからだ）から、体と（解剖生理学）、病気と（病気とからだ）、治療を（病気とからだ、治療と看護）、看護実践とつなげて考える力を習得するために設定した。
社会 保障 制度 と 生 活 者 の 健 康	科 目	総合医療論（2単位 30時間）
	科目設定理由	看護学の各教科を学ぶに先立ち、多様化する保健・医療・福祉の活動を把握し、医療現場で問われている様々な課題（倫理的課題も含む）や、医療とは何かを学ぶ。幅広い視野を持ち、現代や新時代に対応でき、求められる看護師を目指し、役割を理解することを目的として設定した。
	科 目	地域保健論（2単位 30時間）
	科目設定理由	公衆衛生の対象は「ひとり」ではなく「みんなの健康」である。看護の対象は、対象とその家族であり、友人やそして住む地域社会がある。看護の対象となる人を助けるためには社会の仕組みを知る必要がある。現代社会において生命を維持することに加えて、健康のみならず人々の生活あるいは人生の質をいかに高めるかに大きな価値が置かれている。看護師は、人々の生活する地域・職場・学校や社会全体の枠組みの中で広く健康や生活の質を考え多様な人々や組織の力を借り予防活動を実践することが求められる。看護師は患者・家族の生活の質や満足を高め、より良い医療を提供するための基礎的知識を習得する目的で設定した。
	科 目	地域を支える仕組み（1単位 30時間）
	科目設定理由	社会保険の理念と基本的な考え方を理解し、生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉のしくみと課題を学ぶことを目的として設定した。
	科 目	法と看護（1単位 15時間）
	科目設定理由	保健・医療・福祉に関する諸制度の概容を理解し、看護職としての職責を正しく遂行するために必要な法規を学ぶことを目的として設定した。

3) 専門分野

専門分野は、基礎看護学、地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、健康状態別看護、看護の統合と実践から成る。

基礎看護学

<設定理由>

基礎看護学では、医療・看護の歴史を通して看護の概念や役割を理解し、保健・医療・福祉の中での位置づけや専門性を学び、自己の看護観を培っていく。また、看護介入に必要な基礎看護技術を科学的根拠に基づいて習得し、対象に合わせた日常生活の援助や診療の補助技術が実践できるようにする。臨床判断能力強化では、対象に必要な日常生活援助が考えられ、科学的根拠に基づき実践できるように、対象の健康状態を捉え、必要な援助を判断し、実践できる力を習得することを目的として設定した。

目 標

1. 看護の対象である人間の特徴と生活者としての人間を理解する
2. 保健・医療・福祉における看護の位置づけや看護の専門的機能と役割について理解する
3. 看護活動の基礎となる基本的看護技術を身につける
4. 科学的根拠に基づいて臨床判断するための看護が実践できる基礎的能力を養う

	科 目	基礎看護学概論Ⅰ（1単位 30時間）
	科目設定理由	看護学を履修する学生が最初に看護について考える科目である。看護の歴史的変遷や看護の諸理論、看護倫理を踏まえ、看護の基本的な概念「看護・人間・健康・社会(環境)」を考え、看護の位置づけと役割を理解し、看護学の豊かさ、深さを

	イメージし、関心を高め、各領域の看護学への学習意欲を発展させることを目的として設定した。
科 目	基礎看護学概論Ⅱ(研究Ⅰ) (1単位 15時間)
科目設定理由	看護師は社会状況の変化に合わせて学習し続ける使命を持った職業である。そのため日常の看護実践から生じる疑問や問題に対し、解決策を見出す方法を学習し身につける必要がある。臨地実習などを通して、看護における研究の必要性を理解し、研究活動に必要な基礎的知識を習得する目的で設定した。
科 目	基礎看護学概論Ⅲ(研究Ⅱ) (1単位 15時間)
科目設定理由	基礎看護学概論Ⅱ(看護研究Ⅰ)で習得した研究に必要な基礎的知識・技術を基盤に看護研究のプロセスを踏むことで、看護研究の実際を学ぶ。事例を取り上げ、問題解決のプロセス構築や倫理的思考を経て、自身の看護援助を振り返り、課題から得た“気づき”を、その後の自己研鑽に活用する力を習得することを目的で設定した。
科 目	生活を支える技術Ⅰ(ヘルスアセスメント) (1単位 15時間)
科目設定理由	看護師が対象の健康状態と日常生活との関連についてアセスメントすることは、看護実践において基本である。看護職として、必要な基礎的知識・技術・態度を習得すると共に、看護の対象である人間への理解を深めることを目的としている。看護に必要なとなる対象者の身体的な情報について、五感を駆使して収集する方法を系統別に学び、アセスメント能力を習得する目的で設定した。
科 目	生活を支える技術Ⅱ(フィジカルアセスメント) (1単位 30時間)
科目設定理由	さまざまな健康レベルにある人に適切な看護を行うために、対象の身体の状態を診査する手技を獲得し、その経緯や自覚症状などと照らし合わせながら問診を行い、各手技を用いて対象に何が起きているのかをアセスメントするための知識・技術を習得する目的で設定した。
科 目	生活を支える技術Ⅲ(生活環境・食べる・排泄) (1単位 30時間)
科目設定理由	対象にとって病床は、治療の場であると同時に生活の場でもある。生活する上で安全・安楽・心地よさを伴わなければならない。人間の自然治癒力を高め、生命の維持、健康の保持増進、疾病の予防・回復のためにも生活環境を整えることは重要である。 食べることは、基本的欲求の一つであり生活していく上での楽しみの一つである。また、人間にとって、生命維持、健康の回復・保持・増進のために必要不可欠である。 排泄は、人間の健康を反映し、生命維持のために重要な役割を果たす。排泄行為は日常生活行動においてQOLを維持することへつながる。 人間にとって食べる、排泄することは生活をしていく中で重要なサイクルであるため、科学的根拠を持ち、対象に対して安全・安楽に援助するための基礎的知識と技術を習得することを目的として設定した。
科 目	生活を支える技術Ⅳ(清潔・活動) (1単位 30時間)
科目設定理由	身体の清潔を保つことは、人間の基本的欲求の一つである。生活していく上で、身体を清潔に保つことは、皮膚の生理的機能を正常に保ち、感染を予防し、爽快感や気分転換を与え闘病意欲を高める。また、新陳代謝を促進し、機能回復につながる。対象とのスキンシップを図ることにより、コミュニケーションを深める機会ともなる。 生活をする上で活動と休息のバランスは大切である。適度な運動は、骨・筋肉・神経の発達を促し、関節拘縮・筋力低下予防につながり身体の生理的機能を促進する。また適度な疲労は良い睡眠を得る。ゆえに自力で清潔行動・活動ができない対象に対して安全・安楽に援助するための基礎的知識と援助技術を身に付ける必要があるため設定した。 人間にとって生活の安寧は、清潔を保持し、活動と休息のバランスを保つことであり、科学的根拠をもとに、対象に対して安全・安楽に援助するための基礎的知識と技術を習得することを目的として設定した。
科 目	生活を支える技術Ⅴ(検査・治療、罨法・包帯・穿刺・感染) (単位 30時間)
科目設定理由	診療を受ける対象が安心し、納得して診断・治療が受けられるように、対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解した上で、的確な援助技術と思いやりをもって対応する姿勢を持つことが重要となる。また、科学的根拠をもとに、対象に対して安全・安楽に援助するための基礎的知識と技術を習得することを目的として設定した。
科 目	生活を支える技術Ⅵ(与薬) (1単位 15時間)
科目設定理由	薬物療法における看護師の役割を理解し、対象の健康の維持・増進・回復に向けた与薬時の援助に必要な基礎的な知識・技術・態度を学ぶ。科学的根拠をもとに、対象に対して一つひとつの行為に立ち止まり確認しながら、安全・安楽に援助するための基礎的知識と技術を習得することを目的として設定した。
科 目	臨床判断する力Ⅰ(1単位 45時間)
科目設定理由	看護を実践するうえで、生態機能学や薬理学などで学んだ専門的知識を活用し、目の前の対象の異常に気づき、今後の予測も含めて判断する「気づき」「解釈」「反

基礎看護学		応」が大切になる。また看護実践した成果を解釈し、「省察」していくことが大切である。この繰り返しの経験が、臨床判断能力を育成する目的で設定した。シミュレーション実習を取り入れ、実践した内容をリフレクションし、臨床判断能力の強化を図る実践教育とする。
	科目	臨床判断する力Ⅱ (1単位 45時間)
	科目設定理由	臨床実習での経験をふまえ専門的知識を活用し、目の前の対象の異常に気づき、今後の予測も含めて判断する「気づき」「解釈」「反応」を「評価」「省察」し、今後の実習につなげる。この繰り返しの経験が、臨床判断能力を育成する目的として設定した。シミュレーション実習を取り入れ、実践した内容をリフレクションし、臨床判断能力の強化を図る実践教育とする。
	科目	基礎看護学実習Ⅰ (1単位 45時間)
	科目設定理由	対象を取り巻く環境を知り、初めての臨床の場での対象と接して、看護師と共に行動し、看護師の役割を知る。また、見学や体験を通して、看護に対する興味や関心を持たせ、その後の学習の動機づけとなることを目的として設定した。
	科目	基礎看護学実習Ⅱ (2単位 90時間)
科目設定理由	対象に合った看護援助を実践するために、看護過程を通して対象の発達段階や健康レベルを学ぶ。	

地域・在宅看護論

<設定理由>

これまでの在宅看護論においては、療養生活を送る人々とその家族を対象としていたが、社会の変化により、現在は超高齢社会、少子社会、生産年齢人口の減少、多死社会などの社会背景があり、公助、共助の限界がある。そのため療養生活を送る人だけでなく、地域で暮らす人すべてが共に在ることを学ぶ必要がある。

地域・在宅看護論では、地域で暮らす人々すべてを看護の対象で自助・互助を支援することやその拠点として地域を理解し、地域包括ケアシステム等の促進、地域に暮らす人々とのパートナーシップに基づき、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援する力を習得することを目的として設定した。

目 標

1. 人々が生活する地域を理解する
2. 暮らし（生まれてから死ぬまで、人生や価値観なども含む）の基盤となる概念を理解する
3. 地域で提供する看護を理解する
4. 地域包括ケアシステムを理解し、多職種の連携やその中における看護の役割を理解する

地域・在宅看護論	科目	地域とくらし (2単位 30時間)
	科目設定理由	自分自身の生活している地域を知り、地域の生活する場を理解する。地域に出向くことで地域の特性や人々のくらしを肌で感じることができ、この地域の課題は何か人々に必要な支援は何か、活用できる資源は何か、など地域の視点を持ち、住み慣れた地域で安全・安楽に生活できるように支援するための基礎的知識を習得することを目的として設定した。
	科目	地域コミュニティ論 (1単位 15時間)
	科目設定理由	現在は核家族化が進み、地域の中での触れ合いが希薄となっており学生自身が「自助」「互助」を体験する機会が少なくなっている。人々が自身の健康とくらしを守るため互いに助け合い、互いに支えあって生活を営んでいることを理解する。地域で生活する人のくらしとつながり、さらに看護職として「共助」を活用し、支援する基礎的能力を習得することを目的として設定した。
	科目	在宅看護論概論 (1単位 15時間)
	科目設定理由	在宅療養者とその家族や生活支援を要する人々の多様なニーズに対応し、QOLを維持・向上させることを目的とした看護活動の必要性を理解し、保険・医療・福祉を統合した包括的ケアの一翼を担う看護の役割と在宅ケアシステムの知識を習得することを目的として設定した
	科目	地域・在宅での生活を支える看護Ⅰ (1単位 30時間)
	科目設定理由	対象理解によるアセスメントを基に看護師が提供する日常生活援助と在宅リハビリテーションを学ぶことを目的とし、事例を取り入れ在宅看護援助技術を習得する目的で演習形式の教育内容として設定した。
科目	地域・在宅での生活を支える看護Ⅱ (1単位 30時間)	
科目設定理由	在宅看護を支える訪問看護師の役割を学び、在宅看護活動の実践例から多様な対象へのニーズに基づく生活支援方法を学ぶことを目的として設定した。	

科 目	地域・在宅での生活を支える看護実習Ⅰ (1単位 45時間)
科目設定理由	治療を受けながらも地域で生活し続ける人々とその家族の、健康と暮らしを支える看護を習得するために設定した。
科 目	地域・在宅での生活を支える看護実習Ⅱ (2単位 90時間)
科目設定理由	在宅療養している対象とその家族の健康と暮らしを支援するために、地域包括ケアシステムを理解し、必要な看護を提供する能力を習得するために設定した。

成人看護学

<設定理由>

成人期はライフサイクルの中で一番長い期間であり、対象とする「成人」とは、身体的および精神・社会的に成長・成熟した人、すなわち「大人」である。また、この時期は社会的役割も持ち、時には困難を経験知としながら、さらなる課題に立ち向かい社会の一員として生活している。現在は社会の変化もめまぐるしく、生産年齢である対象は健康状態や健康問題も複雑かつ多様化している。健康生活を多角的に捉える視点を持ち、多様な健康状態や健康問題に対応する援助を習得する目的で設定した

目 標

1. 対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する
2. 対象の健康上の問題を現代社会の変化や成人の疾病構造の変化の視点から理解する
3. 対象を取り巻く環境や生活背景を捉え、対象の持つ能力に着目した援助について学ぶ
4. 対象の個性に応じた健康障害の諸問題を把握し、予防・回復に向け、対象の健康レベルに応じた援助方法を学ぶ
5. 対象の発達段階と役割を考えながら個性に応じた看護の実践ができるようにする

成人看護学	科 目	成人看護学概論 (1単位 15時間)
	科目設定理由	成人期は青年期から向老期にかけてライフサイクルの中で最も長い時期であり、対象が抱える役割も大きい。ライフステージの中で経験を積みながら成長し、自己のみならず家族や取り巻く人々の生活を支える上で能力を発揮する。時代の変化による価値観の多様化や生活習慣の変化から健康をおびやかす要因が増加し、健康な生活が破綻する。セルフケア能力を活かし、自己の健康管理をしていくための基礎的知識を習得する目的で設定した。
	科 目	成人の生活を支える看護Ⅰ (1単位 30時間) 危機的状況にある人の看護(呼吸・循環・栄養)
	科目設定理由	生命の危機など状態の変化が著しく、危機的状況にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を捉え健康問題に対して医学的基礎知識と看護の既習知識を活かしながら、科学的根拠をもとに健康問題を抽出し、対象の状態に応じた看護援助を習得することを目的として設定した。
	科 目	成人の生活を支える看護Ⅱ (1単位 30時間) 障害受容期にある人の看護(感覚・脳神経・運動)
	科目設定理由	健康状態に急激な変化を受け回復的な段階や障害を受容する状態にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を捉え、健康問題に対して医学的基礎知識と看護の既習知識を活かしながら、科学的根拠をもとに健康問題を抽出し、対象の生活の変化に応じた看護援助を習得することを目的として設定した。
	科 目	成人の生活を支える看護Ⅲ (1単位 30時間) セルフケア期にある人の看護(内部環境調節・代謝・生体防御)
	科目設定理由	健康障害と生活を共にする上で、病気と共存しながら、新たな生活を確立し、その人にとっての健康的な生活を送ることを目標とし、セルフマネジメントできる力を手にいれることが重要である。対象の身体的・精神的・社会的特徴を捉え、健康問題に対して医学的基礎知識と看護の既習知識を活かしながら、科学的根拠をもとに健康問題を抽出し、対象の生活を維持するための看護援助を習得することを目的として設定した。
	科 目	成人の生活を支える看護実習Ⅰ (2単位 90時間) 急性期
	科目設定理由	急性期は健康状態の急激な変化があり、生態がその変化に対応するため様々な反応がおこる時期である。急性疾患患者は軽微なものから生命にかかわるものまであり、患者にとっての苦痛は多大なものである。また予期していなかった家庭生活、社会生活への影響も大きく、患者や家族にとっては人生における重大な危機である。ゆえに生命維持レベルのセルフケアへの支援は急性期に起こりうる問題を推測・判断し、ひとり一人の状況に応じた安全で正確な観察や測定技術を学ぶ目的で設定した。
科 目	成人の生活を支える看護実習Ⅱ (2単位 90時間) 慢性期・終末期・急性期以外	
科目設定理由	急性期を脱した対象は何らかの疾患と障害を抱えながら家庭生活、社会生活を送り、折り合いをつけながら自分らしく生きていく時期である。対象が地域で自分らしく暮らすことを視野に置き、チームでゴールを共有し、対象が主体的にセルフマネジメントできるよう支援する方法を習得することを目的として設定した。	

老年看護学

<設定理由>

発達段階の最終段階である老年期は、人生の完成を目指し、いずれは穏やかに幸せな死を迎える段階である。住み慣れた場所で最期までその人らしい生き方ができるよう、人生を振り返り対象の価値観を知り、尊重することが重要である。高齢者の人権を守り、高齢者と家族の置かれている状況を捉え、個別性をふまえて、高齢者の生活を支えるための基礎的知識を学ぶ。

高齢者は加齢により身体的特徴も変化し、また健康問題は複雑で長期化しやすい。これらを抱えながらも地域で生活している対象を理解し、老年期にある対象とその家族を支える援助を習得する目的で設定した。

目 標

1. 加齢による身体的・精神的・社会的変化の特徴が理解できる
2. 高齢者の健康と生活の多様性が理解できる
3. 高齢者の健康の保持・増進および QOL 向上のために必要な看護を学ぶ
4. 高齢社会の医療・保健・福祉対策の動向と現状が理解できる
5. 高齢者を取り巻く家族や地域の支援システムを理解する（多職種）
6. 高齢者の人権と倫理的問題の現状と課題を理解する

老年看護学	科 目	老年看護学概論 (1 単位 30 時間)
	科目設定理由	老年期は、ライフサイクルの最終ステージであり、人生の完成を目指し、いずれは穏やかに幸せな死を迎える段階である。「老い」を理解し、高齢者の生活史に関心を持ち、人権を守り、高齢者と家族の置かれている状況を捉え、個別性をふまえた高齢者の生活を支えるための基礎的知識を習得することを目的として設定した。
	科 目	老年の生活を支える看護 I (1 単位 30 時間)
	科目設定理由	高齢者の健康問題の特徴や健康を支える看護を理解する。健康問題を生活機能の視点から捉え、残存機能を引き出し QOL を保ちながら日常生活援助に必要な基礎的知識を習得する目的で設定した。
	科 目	老年の生活を支える看護 II (1 単位 30 時間)
	科目設定理由	超高齢社会において、地域で生活していくためには保健医療福祉制度の基礎的知識と多職種の連携が必要となる。高齢者の特徴を踏まえ、人権を尊重した援助・技術を学ぶ。高齢者の人権を守り、高齢者と家族の置かれている状況を捉え、保健・医療・福祉分野における看護師の役割を習得する目的で設定した。
科 目	老年の生活を支える看護実習 (2 単位 90 時間)	
科目設定理由	老年看護の対象は疾病を持ち、障がいと共に生きる人、人生の終末を迎える人など様々な健康レベルにある高齢者である。高齢者の生活史、価値観、健康状態等を理解し、生活に焦点をあて「人生の最終ステージ」をその人らしく過ごせるよう、高齢者を支える家族も含めた看護を学ぶ。	

小児看護学

<設定理由>

子どもは成長・発達し成熟に向けて常に変化する存在であり、年齢や健康レベルにかかわらず、権利を有する一人の人間として尊重される。子どもの権利を尊重し、健やかな成長・発達、健康の保持・増進を支えることは看護の責務である。また、家族は子どもが初めて属する集団であり、小児看護の対象は子どもとその家族である。少子高齢社会、情報社会など子どもを取り巻く環境が大きく変化している。子どもを中心に家族・多職種・地域と連携しながら、子どもにとっての最善の利益を考え、豊かな人生を歩むことができるよう支援することが求められる。

小児看護学では、子どもの成長・発達を理解し、健康の保持・増進を促すための看護について理解する。また、健康問題のある子どもと家族が生活・療養するために必要な看護と成長発達段階に応じた安全・安楽な看護技術について学ぶことを目的として設定した。

目 標

1. 子どもの成長発達段階と子どもを取り巻く環境について理解する
2. 子どもの権利の尊重について理解する
3. 子どもを取り巻く保健・医療・福祉の動向について理解する
4. 子どもの健康の保持・増進、回復を促すための看護について理解する
5. 健康問題のある子どもと家族が生活・療養するために必要な看護を理解する
6. 子どもの成長発達段階に応じた安全・安楽な看護技術について理解し援助技術を学ぶ

小児看護学	科 目	小児看護学概論 (1単位 30時間)
	科目設定理由	子どもは成長発達し、成熟に向けて常に変化する存在であり、年齢や健康レベルに関わらず、権利を有する主体的な存在である。子どもの権利と成長発達段階について理解し、子どもと家族がおかれている環境をさまざまな視点から捉え、健やかな成長・発達と健康の保持・増進、回復を促すための看護の基礎的知識を習得することを目的として設定した。
	科 目	小児の生活を支える看護Ⅰ (1単位 30時間)
	科目設定理由	健康問題のある子どもの疾患・治療の特徴を理解する。子どもと家族の生活を支え、健康レベルに応じた看護援助を習得する。子どもの成長発達段階に応じた看護が実践できる基礎的知識を習得することを目的として設定した。
	科 目	小児の生活を支える看護Ⅱ (1単位 30時間)
	科目設定理由	健康問題のある子どもと家族が生活するために必要な看護の知識と、子どもの権利を尊重し成長発達段階に応じた安全・安楽な看護技術を習得することを目的として設定した。
	科 目	小児の生活を支える看護実習Ⅰ (1単位 45時間)
	科目設定理由	健康な子どもの成長発達と生活環境を理解し、小児の成長を促すための援助を学ぶことを目的として設定した。
小児看護学	科 目	小児の生活を支える看護実習Ⅱ (1単位 45時間)
	科目設定理由	健康問題のある子どもとその家族を理解し、成長発達段階及び対象に応じた看護を学ぶことを目的として設定した。

母性看護学

<設定理由>

母性看護学は人々の健康を、性と生殖に関する側面から捉え看護の必要性を考える領域である。女性のライフサイクル全体を通して、健康の維持・増進・疾病予防を目的とし、次世代の育成を目指すため、女性・子ども・その家族の生命・人権を尊重し、その人なりの健康生活を支える実践科学である。近年、女性のライフサイクルにおいて、価値観、家族形態が多様化し様々な健康問題が生じている。また生殖補助医療技術の進歩は目覚ましく先端医療の恩恵を受ける女性が増加していることで、生命倫理上の問題や女性の心身への負担など健康面に大きな影響を受けている。そのため、人が生きていくために必要不可欠なセクシャリティ、リプロダクティブヘルス/ライツの概念及びヘルスプロモーションを理解し、性と生殖における基本的な考え方を学ぶ必要がある。また母性看護の歴知的変遷や母子保健統計から看護職の役割や母性領域における今後の課題を理解することを目的とし設定した。

目 標

1. 母性領域における対象の特徴を理解し、母性看護の意義と役割を学ぶ
2. 対象を取り巻く社会情勢を理解し、母性看護の役割や今後の課題を理解する
3. 女性のライフサイクルにおける発達課題とそれに伴う健康問題を理解する
4. リプロダクティブヘルス/ライツの概念から人間の性と生殖について理解する
5. 周産期における母子および家族の健康維持を促すため、ウェルネス思考による看護の展開方法を学ぶ
6. 生命の誕生から命の尊さについて考え、自己の母性観・父性観を深める

母性看護学	科 目	母性看護学概論 (1単位 15時間)
	科目設定理由	母性とは何かを探求し、性と生殖に関する問題と今後の課題を知り、その上で歴知的変遷や母子保健統計から看護職の役割を理解する。また女性のライフサイクル各期における健康と、次世代の育成を支えるため、母性看護の基盤となる概念を習得することを目的とし設定した。
	科 目	母性の生活を支える看護Ⅰ (1単位 30時間)
	科目設定理由	妊娠は生理的現象であり、妊娠の成立など生殖に関する健康問題にも視野を広げ理解する必要がある。妊娠期は妊娠週数に応じた身体的、精神的、社会的変化をウェルネス思考の視点で捉えることが重要となり、また胎児の発育も同時に捉えていくことが求められている。そのため妊娠期の正常な経過を理解し、母子とその家族に看護実践するための知識・技術を習得する目的で設定した。
母性看護学	科 目	母性の生活を支える看護Ⅱ (1単位 15時間)
	科目設定理由	分娩期は分娩の経過に伴う身体的、精神的、社会的変化をウェルネス思考の視点で捉えることが重要となり、また胎児の健康状態も同時に捉えていくことが求められている。そのため分娩期の正常な経過を理解し、母子とその家族に看護実践するための知識・技術を習得する目的で設定した。

母性看護学	科 目	母性の生活を支える看護Ⅲ (1単位 30時間)
	科目設定理由	産褥期は分娩を終えた母体の身体的変化をウェルネス思考の視点で捉えることが重要となり、また新生児の成長・発達も同時に捉えていくことが求められている。さらに子どもが誕生することで、母親・父親役割の獲得や家族関係の再構築など子どもを迎えた褥婦、家族の心理・社会的な変化を捉えることが重要となる。産褥期、新生児期の正常な経過を理解し、母子とその家族に看護実践するための知識・技術を習得する目的で設定した。
	科 目	母性の生活を支える看護実習 (2単位 90時間)
	科目設定理由	周産期における看護実践を通じ、妊産褥婦及び新生児とその家族の全体像を捉える視点を理解する。また産褥期、新生児における経日的変化を捉え、地域での生活が安心できるよう先を見据えた看護実践能力を習得する目的で設定した。

精神看護学

<設定理由>

人間は現代社会における過大なストレスを抱えながらも、それぞれのライフサイクルにおける発達課題を達成し社会生活を送っている。しかし、その中では人間関係が希薄になり、「人と人との関わりにくさ」、「生きにくさ」を感じながら生活している。このような社会的環境は様々な「こころの病」の原因の一つとなっており、こころの健康はその人の「生活の質」に大きく影響する。

精神看護学は、すべてのライフサイクルにおける精神的発達および精神の健康保持・増進とともに精神に障がいがある人をありのままに受け止めて生活を支援していく。そのため、精神に障がいをもちながらも、その人らしい生活を継続し、住み慣れた地域で生活するための看護援助を習得する目的で設定した。

目 標

1. 人のすべてのライフサイクルにおける精神の健康発達および精神の健康に及ぼす要因について理解することができる
2. 人間の健康を身体的・心理的・社会的な視点から捉えたうえで、精神に障がいがある対象の健康問題を理解する
3. 精神に障がいがあることにより引き起こされる日常生活への影響について、理解する
4. 精神に障がいがある対象のセルフケア向上に向けて必要な看護援助を学ぶ
5. 精神に障がいをもちながらこころの健康を保ち、地域で生活するための社会復帰に向けた取り組みや精神保健医療福祉チームとの連携の必要性を理解する

精神看護学	科 目	精神看護学概論 (1単位 30時間)
	科目設定理由	人間のこころの健康は生活を構成する一つで、その人の「生活の質」に大きく影響しており、生活していく上でこころの健康と安定を保つことが必要とされる。現代社会における過大なストレスの中でバランスを崩し、「人と人との関わりにくさ」、「生きにくさ」を感じながら生活している人の特徴を理解する必要がある。既習知識を用いて、こころの病を引き起こす要因や倫理的配慮・精神看護に関する法律などを理解し、住み慣れた地域でその人らしい生活を維持するための基礎的知識を習得する目的で設定した。
	科 目	精神に障がいのある人の生活を支えるⅠ (1単位 30時間)
	科目設定理由	精神障がいに関連する主要な概念、症状、治療、経過を理解し、対象がその人らしい生活ができるよう基礎的知識を習得し援助に活かすことを目的として設定した。
	科 目	精神に障がいのある人の生活を支えるⅡ (1単位 30時間)
	科目設定理由	こころの健康は生活の場に影響を与えることを理解し、健全な精神の発達への支援と精神機能に障がいのある対象および家族への援助に必要な基礎的知識・技術を習得することを目的として設定した。
科 目	精神に障がいのある人の生活を支える看護実習 (2単位 90時間)	
科目設定理由	人々の精神の健康保持・増進と疾病予防への援助活動を理解し、さらに精神に障がいがある人及び家族への理解が必要である。その上で、地域での生活に視野を置き、自立に向けたセルフケア向上への援助及び多職種との連携の必要性について習得することを目的として設定した。	

健康状態別看護

<設定理由>

健康状態別看護は、前カリキュラムを評価した時に専門領域において重複や共通する内容を科目ごとに教授したため、領域横断科目として設定した。健康状態別看護には、健康の保持・増進、疾病の予防、健康回復への促進、その人らしい生を全うする援助、また、すべてに共通し科学的根拠を持ち健康問題や課題を明確にする思考過程を学ぶ必要がある。教授形式は講義形式だけではなく、シミュレーションを用いての演習を通して、実践につなげられる内容とする。

健康状態別看護実習では、対象それぞれの健康状態を把握し、その状態に必要な看護を学生が気づき、実践できる方法を学ぶ。また、この実習では臨床判断を行うための基礎的能力を養うためにリフレクションを重視し、経験→省察→理論の順序で行う。

健康 状態 別 看護	科 目	健康回復支援論 (2単位 45時間)
	科目設定理由	あらゆる健康レベルにある対象の身体的・心理的・社会的側面を捉え、具体的な症状を用いながら症状のメカニズムを基盤に、アセスメントの視点や看護援助の根拠が理解できるように設定した。また、シミュレーションを活用した演習を通し疾患の理解をはじめ必要な看護が考えられ、援助を実践できるようにPBLを取り入れ学生が主体的に学び答えを導き出せるような内容とした。
	科 目	看護展開 (1単位 30時間)
	科目設定理由	看護の対象は様々であるが、対象となる人がその人らしく生きることを支援することが看護の目的の一つである。このような目的や機能をもった看護を具体的に実践するための方法論の1つが看護過程である。看護過程を学ぶことでクリティカルシンキング能力を高めることにもなり、患者の安全・安楽、身体的・精神的な早期回復や個別性のある看護援助を提供できる。基準や根拠に基づいて物事を考える基本的知識を学び、対象にとって必要な援助を見極め、計画的に展開し行った援助の結果を客観的に評価する過程を学ぶために設定した。
	科 目	健康支援論 (1単位 30時間)
	科目設定理由	現代は疾病からの回復だけでなく、予防と健康づくりの視点が看護職に求められている。また少子超高齢社会となり年齢構成の変化やあらゆる健康レベルにある対象が混在している。 さらに人々の健康への関心は高くなり健康への価値観も変化している。こうした社会情勢や健康観の変化の中で看護者はあらゆる世代・個人・集団に焦点を当て、看護の対象者が健康に生きていく力を持つようにはたらきかけなければならない。そのため看護における健康支援活動の基本的知識を習得するために設定した。
	科 目	薬物療法と看護 (1単位 30時間)
	科目設定理由	看護師は与薬の最終実施者でもあり、薬物治療に関して高度で幅広い知識が求められる。与薬は看護介入の一つでもあり患者の安全を担保する必要もある。そのため、臨床薬理学で学ぶ知識を基に、与薬に関する幅広い知識と治療効果の判定と副作用の早期発見、服薬アドヒアランスの向上、在宅医療への対応など看護の視点から薬物療法を学べるように設定した。
	科 目	周手術期と看護 (1単位 30時間)
	科目設定理由	人間にとって手術体験は、大小問わず非日常的な体験であり、侵襲も大きい。さらに、手術後に予測される疼痛などが日常生活に制限をもたらし、ボディイメージの変化、体力の低下や合併症治療など不安や恐怖の要因は多種多様である。こうした手術患者に対して、状態の変化に気づき、対応する力や侵襲が小さく個別的な援助を学べるように設定した。
科 目	終末期と看護 (1単位 30時間)	
科目設定理由	超高齢社会・多死社会の現代を理解し、健康問題や老いにより死を迎える状態にある対象やその家族を総合的に捉え、緩和ケアや尊厳ある看取りを理解するために設定した。住みなれた地域でその人らしい暮らしを最期まで続けることができるような終末期看護を学ぶ。対象はがん患者だけでなく難病を含む多くの慢性疾患の患者、小児・高齢者など多岐にわたる。	
科 目	健康状態別看護実習 (2単位 90時間)	
科目設定理由	健康状態別看護実習では病気の経過や発達段階に合わせた看護を見学・実践する。見学・実践したその場・その時の看護からなぜ対象に必要な援助であったのか、科学的根拠を明確にし、臨床判断を行うための基礎的能力を習得するために設定した。	

看護の統合と実践

< 設定理由 >

看護の統合と実践では看護を行う上で必要不可欠な、看護の対象となる人々の生活の場や医療の場における安全を守るルールや援助方法、多職種連携における看護師の役割を理解する。既習の知識・技術・態度を統合し、既習の知識を積み重ねつつ、看護を実践する能力を高める目的で設定した。

看護の統合と実践は、基礎分野・専門基礎分野・専門分野で学んだ機種の知識・技術を引き出し研究的な視点を持って統合し、より実践する能力を高めることを目的として設定した。

目 標

1. 地域で生活している人を知る
2. 組織の中の看護師の役割を理解し看護管理の基礎的知識を習得する（目標 1・3・5 入れた）
3. チーム医療及び多職種協働の中で看護師としてのメンバーシップを学ぶ
4. 国際社会において広い視野に基づき、看護師としての諸外国との協力の必要性を考察する
5. 災害における看護の基礎的知識を学び、災害時の看護師の役割を理解する
6. 複数の事例を通して知識技術の統合と、総合的な判断を学び対象の状態に応じた看護を実践する能力を身に着ける
7. 自己のキャリアを形成し、学び続ける姿勢を持つことができる

看護の統合と実践	科 目	看護管理 (1単位 30時間)
	科目設定理由	看護において管理の概念や知識は、看護管理者だけに必要なものではなく、業務を行う上で、責任を持つすべての看護職に必要な概念として捉える。看護師は「医療」と「生活の」両方に視点を持ち、質の高い看護サービスを提供するために全体をマネジメントする能力が求められる。また、チーム医療及び多職種との協働・連携の中でリーダーシップ・メンバーシップを理解し、看護をマネジメントする基礎的知識を習得することを目的として設定した。
	科 目	国際看護 (1単位 15時間)
	科目設定理由	国際看護および国際保健に関わる国際機関の役割と機能、社会的・経済的な諸問題に焦点をあて、その多様性を学ぶ。グローバルな環境課題や問題が及ぼす人々の健康への影響と国際看護の役割と支援方法を学ぶ。グループワークにより実際の健康問題や環境問題等について学ぶ。また、国際保健医療活動のしくみについて学ぶために、実際の支援内容について聞き、理解を深めることを目的として設定した。
	科 目	医療安全 (1単位 30時間)
	科目設定理由	臨床場面で変化する対象に組織として患者の状況に応じて判断し、より安全に看護を実践できるように事例分析や事故発生のシミュレーション演習を取り入れ、リスクを判断する必要性を理解させる教育内容とした。ここでは知識・技術の統合をはかり看護の実践とそれを評価する。
	科 目	災害看護 (1単位 15時間)
	科目設定理由	震災や風水害等が多くみられる今日、状況に応じて臨機応変に対応できる柔軟性や被害を受けた対象とその家族と人間関係を築く能力を習得し、緊急時に対応できる技術や災害の及ぼす生命や健康生活への被害を極力少なくする活動を通して災害時における看護の役割が考えられることが求められている。そこで災害に対する基礎的知識及び災害時の問題を知り、被災者の抱える身体・心理・社会的な問題、看護の果たす役割について専門職看護師に求められている人々の健康と生活の向上に向けた社会への支援として、災害医療、災害看護に関する基礎的知識と技術の理解を深めることを目的とし設定した。
	科 目	リフレクション (1単位 15時間)
	科目設定理由	講義・実習・演習の学びを統合し、その経験全体を振り返り、自己の行動、思考を言語化し、その時の判断について再考する。根拠の裏付けや意味付けをすることで、看護実践能力を高める力を習得することを目的として設定した。
科 目	看護の統合と実践実習Ⅰ (1単位 45時間) 看護の統合と実践実習Ⅱ (2単位 90時間)	
科目設定理由	看護の統合と実践実習Ⅰでは、サービスや支援を受けながらも地域で療養・生活している対象を理解し、看護の統合と実践実習Ⅱではチーム医療における一員として医療・保健・福祉との連携を踏まえて、チーム医療に参加しメンバーシップ及びリーダーシップとしての役割や多職種との連携・協働を学び、援助の優先順位を考え安全に看護を実践することを目標とする。	